

富山高等専門学校		開講年度	令和05年度 (2023年度)		授業科目	歴史学 I
科目基礎情報						
科目番号	0052		科目区分	一般 / 選択		
授業形態	授業		単位の種別と単位数	学修単位: 1		
開設学科	電気制御システム工学科		対象学年	4		
開設期	前期		週時間数	前期:2		
教科書/教材	特に指定しない。					
担当教員	横山 恭子					
到達目標						
・日本と東アジアの対外関係・国際交流の特徴を説明できる。 ・絵画史料（絵図・地図）を調査・分析し、説明できる。 ・歴史的事象と現代社会の国際問題とを結び付け、意見を持つことができる。						
ルーブリック						
	理想的な到達レベルの目安		標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安	
評価項目1	各時代の日本と東アジアの対外関係・国際交流の特徴を具体的に説明できる。		日本と東アジアの対外関係・国際交流の特徴を説明できる。		日本と東アジアの対外関係・国際交流の特徴を説明できない。	
評価項目2	絵画史料（絵図・地図）を詳細に調査・分析し、説明できる。		絵画史料（絵図・地図）を調査・分析し、説明できる。		絵画史料（絵図・地図）について説明できない。	
評価項目3	歴史的事象と現代社会の国際問題とを結び付け、意欲的に自分なりの意見を持つことができる。		歴史的事象と現代社会の国際問題とを結び付け、意見を持つことができる。		歴史的事象と現代社会の国際問題とを結び付けることができない。	
学科の到達目標項目との関係						
学習・教育到達度目標 B-6 JABEE 1(2)(a) ディプロマポリシー DP1						
教育方法等						
概要	古代から前近代を中心とした東アジア交流概論。日本の対外関係を通史的に俯瞰しながら、中国、朝鮮半島などの東アジア諸国・諸地域との交流を通して、日本がどのように先進文化・技術を受容してきたか、それらをどのように成熟・発展させ産業化・国産化を進めてきたかを概観していく。各時代の日本の対外関係ならびに、東アジア諸国・諸地域との結びつきの特徴を理解・認識するとともに、将来国際的な技術者としてグローバルに活躍し、世界の人々と接する際に必要な知識・教養を豊かなものにする。					
授業の進め方・方法	講義形式で毎回資料を配布する。参考文献等は授業中に紹介する。時々作業プリントや授業の感想等の提出を求めることがある。事前に行う準備学習として、前回の講義の復習および予習を行ってから授業に臨むことを求める。授業外学習・事前として授業内容を予習しておく。授業外学習・事後として配布物を読み直す。					
注意点	授業の進度・内容は学生の理解度によって変更することがある。本科目では、60点以上の評価で単位を認定する。評価が60点に満たない者は、願い出により追認試験を受けることができる。追認試験の結果、単位の修得が認められた者は、その評価を60点とする。					
授業の属性・履修上の区分						
☐ アクティブラーニング		☐ ICT 利用		☒ 遠隔授業対応		☐ 実務経験のある教員による授業
授業計画						
		週	授業内容		週ごとの到達目標	
前期	1stQ	1週	ガイダンス、東アジア華夷秩序と古代日本①		「華」と「夷」からなる東アジアの秩序と理論、中国歴史書の中の倭国について知識を得る。	
		2週	東アジア華夷秩序と古代日本②		渡来人の移住と漢字・儒教・仏教の伝来について知識を得る。	
		3週	東アジア華夷秩序と古代日本③		渡来人の特殊技術と古墳・寺院造営との関わりについて知識を得る。	
		4週	絵画史料を読み解く①		「麻疹絵」「疱瘡絵」を読み解き、内容や背景を説明できる。	
		5週	東アジアの戦乱と中世日本①		日宋貿易と渡来銭、国内経済への影響について知識を得る。	
		6週	東アジアの戦乱と中世日本②		蒙古襲来と火器の発達、国際社会の変容について知識を得る。	
		7週	東アジアの戦乱と中世日本③		東シナ海の偽使・倭寇、大航海時代の鉄砲伝来について知識を得る。	
		8週	近世日本の対外関係と四つの口①		「鎖国」と「海禁」、とキリスト教禁教の流れについて知識を得る。	
	2ndQ	9週	近世日本の対外関係と四つの口②		徳川幕府の外交政策、朝鮮・琉球使節訪日について知識を得る。	
		10週	絵画史料を読み解く②		朝鮮通信使絵巻を読み解き、行列図や成立背景について説明できる。	
		11週	近世日本の対外関係と四つの口③		蝦夷地開発と北前船交易、測量技術の発達について知識を得る。	
		12週	近世日本の対外関係と四つの口④		長崎貿易と蘭学の発達、語学習得について知識を得る。	
		13週	近代日本と国民国家システム①、レポート課題発表		産業革命の進展と黒船来航について知識を得る。	
		14週	近代日本と国民国家システム②		文明開化とお雇い外国人について知識を得る。	
		15週	近代日本と国民国家システム③		治水事業と交通・流通網の発達について知識を得る。	
		16週	まとめ、レポート提出、復習作業		日本と東アジアのつながりを振り返り、自分なりの意見を持つことができる。	

モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標								
分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標				到達レベル	授業週
評価割合								
	試験	発表	相互評価	態度	ポートフォリオ	提出物	レポート	合計
総合評価割合	0	0	0	0	0	20	80	100
基礎的能力	0	0	0	0	0	20	80	100
専門的能力	0	0	0	0	0	0	0	0
分野横断的能力	0	0	0	0	0	0	0	0